90 河合塾エンリッチ講座

完成シリーズ

9月18日(火) **東欧・その前後**—変動の季節をチェコでの体験を通して— **池袋校**

池本修一（前外務省専門調査員）
司会：権田雅幸 講師（地理科）

9月20日(木) **東マレーシア Uma Bwang からのメッセージ** **千駄谷校**

溝口俊夫（福島県県民の森レンジャー）
司会：環境問題研究会

9月26日(水) **近ごろ考えること**—最近の国際情勢を中心に— **千駄谷校**

小田　実（河合文化教育研究所研究員・作家）
司会：古藤　晃 講師（英語科）

9月27日(木) **近ごろ考えること**—最近の国際情勢を中心に— **池袋校**

小田　実（河合文化教育研究所研究員・作家）
司会：古藤　晃 講師（英語科）

9月29日(土) **学校からはみだす「学ぶ力」**—いま公教育で起きていること— **横浜校**

山本哲士（信州大学助教授）
司会：吉野大作 講師（国語科）

9月29日(土) **少女は浮遊する**—少女マンガから文化人類学まで— **駒場校**

本田和子（お茶の水女子大学教授）
司会：小林敏明 講師（国語科）

10月2日(火) **秩父事件**—自由自治元年にかけたチチブの民とその風土— **立川校**

井手孫六（作家）
司会：鶴岡　聡 講師（世界史科）

10月8日(月) フリートーク **「若者像」を笑いとばす** **日仏会館ホール**

岡崎京子（漫画家）
サエキ・けんぞう（ロックバンド「パール兄弟」ヴォーカリスト）
手塚　真（ヴィジュアリスト）
進行役：梅沢真由起 講師（国語科）＋立川芳雄 講師（国語科）

10月9日(火) **民主化と市場原理のあいだ**—どうなる？ 東欧・中国　どうする？ 日本— **横浜校**

水谷　驍（ポーランド資料センター）
加々美光行（アジア経済研究所）
武藤一羊（アジア太平洋資料センター）
司会：菅　孝行 講師（小論文科）

予定

- **アメリカの大学と数学教育**
  伊藤 慶応大教授
- **希望としての教育**
  宮田 東北大教授
- **大学がみえてくる英語**
  武市 中央大教授
- **朝鮮半島の壁は崩壊するか**
  玉城素ほか

※都合で日程などが変わる場合もありますから、チラシや掲示で再確認して下さい。

90エンリッチ講座⑨

東欧・その前後

変動の季節をチェコでの体験を通して

前外務省専門調査員 池本修一

1986年春から3年間、チェコスロバキアのプラハで生活した。日本を出発する当日までビザが発給されなかった。プラハに着いて初日に宿泊したホテルでは、夜中に何者かがドンドンとドアをたたく。おそろしかった。これが「社会主義国」チェコのぼくへの歓迎だった。自分の肌で「体制」を感じたのは生まれて初めてだった。それ以来、プラハでの仕事はつねに何ともいえぬ緊張をともなっていた。

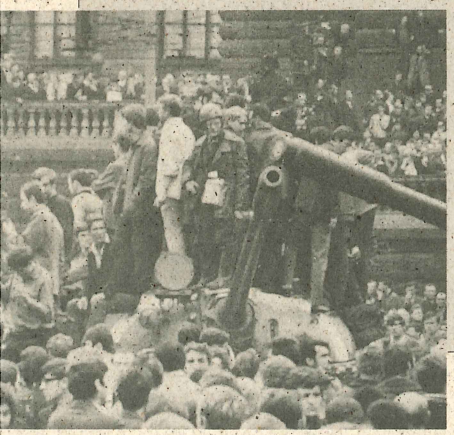
1988年8月21日、ワルシャワ条約軍が「プラハの春」民主化運動を頓挫させるためにチェコに侵入して20年目、すなわち「プラハの春」事件20周年記念日である。この日、プラハでは、事件後はじめての市民デモがあった。家族づれや、若い人々など多数の一般市民が参加していた。これが89年11月の「市民革命」の発端だった。深夜、照明に映える美しいプラハ城を背景に道路や橋をブロックしていた警官。このコントラストが異様な雰囲気を醸し出していた。

1989年11月17日、何度めかの市民デモがあった。これまで武力でデモが鎮圧されていた。市民はこれに武力で対抗しなかった。チェコ人は平和を愛する国民だからだ。この日のデモで学生一人が死亡したといううわさが、その日のうちにまたたく間に市民にひろがった。市民はとうとう重い腰を上げた。このうわさがきっかけとなって、一週間続いた市民デモ・集会に共産党政権は屈した。プラハ城の主(あるじ)が入れかわったのだ。

東欧革命の背景、現状について、チェコスロバキアを中心に話してみたい。

内容紹介

1977年(昭和52年)、日本は高度経済成長が一段落し、安定成長期に入っていた。ソ連ではブレジネフが、ルーマニアではチャウシェスクが、そして東ドイツではホーネッカーが、それぞれ半永久的に続くのではないかと思われる政権を維持していた。特に東ドイツは、3年前に改定された憲法の中で、西ドイツとの合併の可能性を暗示するような語句をすべて削除したばかりであった。それからわずか10年あまりで、これらの社会主義国にこれほど大きな変化が起きようとは、まして東西ドイツの合併が実現しようとは、何びとたりとも考えもしなかったであろう。



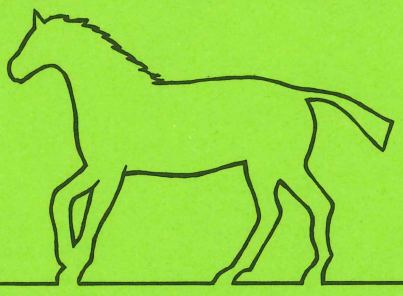
同年、河合塾駒場校オープン、文系・理系各3クラス、塾生の数は合わせて300人余、これが東京河合塾の第1期目であった。池本修一氏はこの第1期生の一人である。そして現在は東欧、特にチェコ・スロバキア研究においては我が国の代表的人物になった。本年のエンリッチ講座の主要テーマである東欧問題について、ホットな話題が提供されるに違いない。それに加えて、当時の状況を知る人の少ない、開校時の河合塾駒場校の様子なども、現在10,000人をはるかに越える東京地区の河合塾生に伝えていただけたら幸いである。

司会：権田雅幸（地理科講師）

9月18日(火) 池袋南校舎 7C教室 18:45～

90エンリッチ講座⑦

ターフからの贈り物



◆講　師◆
佐藤洋一郎
〔サンケイスポーツ新聞記者〕

◆司　会◆
権田雅幸
〔地理科講師〕

私にとって競馬評論家は「あこがれの職業」であった。機会があって、その端くれに名を連ねたこともあった。端で見るのと違い、実に厳しく、神経を消耗する世界だった。自分の予想したレースのたびに胃が痛んだ。自分が買った馬券が当る・外れるというのと全く次元の違う緊張感にさいなまれつづけた。半年でその企画が終わり、身を引くことになったが、正直言ってほっとした。半年間の予想の収支決算はかなりのプラスだった。それでも「二度とやるまい」と思った。A型人間であることを心ならずも自覚させられた。以来、河合塾講師となってからも、入試問題予想めいたことは一切しないようにしている。

競馬と大学受験、一見何の接点もなさそうであるが、共通点は少なくない。何よりも、自分の頭で考えたことが正しければ、それだけで栄光を摑める。何の下工作も、根回しも、裏取引もなしで一流大学への門も開かれるし、万馬券を手にすることもできる。しかもその機会が誰にでも(未成年者・学生は勝馬投票券を購入することができないという制約はこの際別として）平等に与えられている。これは凄いことである。両者とも結果が全てであり、その結果が「真実」であることも共通する。一部の、「面接・小論文、内申書重視」という怪しげな選抜方法をとる大学を除けば、大学入試の制度はこれ以上ないほど公平である。得点さえ高ければ、いかにネクラな人間でも、口下手で人付き合いが苦手でも、あるいはM.斎藤氏のギャグ（本音？）の対象になるような○スでも、合格できるのである。今の世の中、この「一見当り前のこと」が実現すること自体、画期的なことだと思う。馬券もまたしかりである。大口投資者と一般投資者の間に格差が付けられる株券と違って、馬券は誰が持っていても価値に変わりがない。私が競馬にとり憑かれた理由の１つに、この「平等性」がある。

佐藤洋一郎氏は独自の世界を持つ評論家である。氏のこれまでのターフとの関わりの中で培われた「勝負師」としての心構え、大橋巨泉氏をはじめとする競馬人、あるいは競馬を愛好する著名人との交流、さらに文学部（早稲田）出身を彷彿させる、風貌に似合わない（失礼）見事な感性、語られる内容の１つ１つが各人の生き方にさまざまな「味付け」をしてくれるだろう。

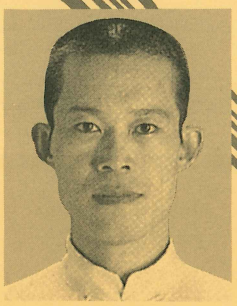
8月13日(月) 17:30～ 千駄谷校 521教室

90エンリッチ講座⑤

気功とは何か

気功と中国武術の実演と講演

［講師］湯（タン）偉忠（ウェイチュン）



一九五四年上海市生まれ。
病弱を克服するために仏門の僧侶について気功の鍛練をはじめた。
その後陳式太極拳を十年にわたって修練し、さらに形意拳などさまざまな武術を身につける。
中国を代表する若手武術家であり、気功医師でもある。
来日いらい、各地の演武会で日本の武術・気功愛好家に圧倒的な印象を与えている。

JICC出版局　発売ビデオより

「気」って何だろう!?「気功」とは何ぞや!?
そんなモノ信じられないヨ！
数字に置き換えられない世界など意味ないヨ！
と思っている人たちも、ためしにやって来て下さい。
「気」を体験し、「気」の本質を直観できれば、
きっと宇宙って何なのか、ちょっぴり見えてくるはず！

司会　吉野大作［講師］

7月23日(月)　午後5:00～
千駄谷校東校舎　621教室

4/4

90 エンリッチ講座 ⑩

東マレーシア Uma Bawang からのメッセージ

Message from Uma Bawang East Malaysia

獣医師 **溝口俊夫** 福島県県民の森チーフ・レンジャー

司　会 **環境問題研究会**

9月20日㈭ 千駄谷東校舎 711教室 17:30～

毎年、本州のほぼ半分に相当する面積が減少しているという熱帯林。
東マレーシア(ボルネオ島)サラワク州ウマ・バワン村。
今もなお、焼き畑と採集狩猟にたよって生活を営んでいるカヤン族が住んでいる。
1987年10月、森林伐採に反対し、林道をバリケード封鎖した村人42人が逮捕された。
温和な部族である彼らが、なぜそれほどまでの行動に走ったのか。

この10年間で、東京都の2倍近くの面積が消失したというブナの森。
福島県南会津郡檜枝岐村。沢を登りつめていく一人の老人に出会った。
ドオと呼ばれるスズ竹で編んだ籠を使って、
サンショウウオを捕っているのだという。
「もう、そんだ長いことはできねぇな。」
と、言って指差した先に、巨大な砂防ダムがまるで城壁のように聳え立っていた。

智恵子抄で名高い安達太良の山麓。
トウムギ畑の近くで一頭の熊が仕留められた。
箱ワナという頑丈な鉄製の檻の中でである。
スキー場はゴンドラを増設するために、また森を伐採した。
撃ち殺された熊の目は、
ほんとうの空があると言われていた安達太良の虚空に向けられていた。

環境悪化はまさに危機的状態にあるという。
持続的開発・環境容量・遺伝子プール・債務の自然保護スワップ・環境倫理・動物倫理等々、
21世紀に向かって様々な理念が提起されている。
現場に立って検証をしてみた。